



# 碧の風

千葉市立川戸中学校  
校報 第5号  
令和4年9月14日

## 川戸中学校の特色

校長 板垣 章子

猛暑の夏を終え、秋風を感じる季節となりました。

先週、本校に教育委員会の先生方が8名ほど視察に来られました。学校の状況を半日かけて点検する訪問でした。校舎内外の施設や諸帳簿の確認、またすべての学級の授業を観察し、全校生徒の様子を見ていかれました。廊下で元気に挨拶する生徒や授業に真剣に取り組む様子を見て、「とてもよい雰囲気学校ですね」と、お褒めの言葉をたくさんいただきました。

「井の中の蛙大海を知らず」の言葉通り、私たちはどうしても内側からしか物事をとらえられない傾向があります。こうして第三者に外側から見ていただくことは、大変重要なことであると思います。そして、学校はつねに変化しています。それは、生徒、教職員、保護者、地域が変化していくからです。伝統を受け継いでいるか、大切なものを失っていないか、新たなことに挑戦しているか、皆で意識していくことが重要であると感じます。

今回の学校訪問を受けて、改めて川戸中の特色を考えてみました。ご存じの通り本校は一小一中学区であり、「小中一貫教育校」という指定を受けていることが大きな特色です。しかし校舎を建て替えたり教職員を増やしたりなどの厚遇に恵まれているわけではないため、全国ニュースに出るような華々しい小中一貫教育校とはいきません。それでも強みである「地域の力」を支えに、地道に川戸小中としての教育を実施しています。例としては、

- |                |                       |
|----------------|-----------------------|
| ・菊づくりボランティア    | ・エコキャップ回収ボランティア       |
| ・小学校正門でのあいさつ運動 | ・フラワーロードプロジェクト        |
| ・国語の俳句創作と鑑賞会   | ・社会の都道府県かるたづくり、歴史新聞交流 |
| ・数学の教え合い学習     | ・理科の自由研究プレゼン          |
| ・英語のスピーチ発表の視聴会 | ・音楽の合唱発表と鑑賞会          |
| ・家庭科の交流学习      | ・保健体育科の交流学习           |

その他、多くの場面や授業で、地域の方や小中学生が交流したり、中学校の教職員が専門性を生かして小学生に授業を行ったりしています。コロナ禍で思うように実施できないこともありますが、これらの活動はごく自然な形で川戸小中の学校教育の一部となっています。私たち教職員は日常的に話し合いを繰り返しながら、小中で協力してアイデアを出し合っています。

教育は、短時間で成果が出るものではありません。一見、遠回りしているような小さな取組であっても、川戸小中生の心を豊かにし、新たな気づきや学びを支える機会となっていると信じています。そして、成長して大人になったときに、それぞれが川戸への誇りと「学ぶ力」を身に付けて、地域や社会に貢献できるようになってくれることを期待しています。